

第 122 号
2019.5 発行

総研大

NEWSLETTER



総研大 Topic

社会連携事業「未知への挑戦:若手が語る最先端研究」 / 研究者人材育成シンポジウム /
総研大アジア冬の学校 "Star and Planet Formation: Key Questions and Challenges" /
国立天文台スプリングスクール / 平成 30 年度春季学位記授与式 / 広報連絡会 /
湘南国際村セミナー「豊かな人生を考える」 / 高エネ 新入生ガイダンス /
平成 31 年度春季入学式

受賞情報 / プレスリリース / メディア等出演・掲載情報 / イベント情報 / お知らせ

S O K E N D A I



社会連携事業

「未知への挑戦：若手が語る最先端研究」を実施

2019年1月27日（日）の午後、長野県飯田市公民館に総研大院生6名がやや緊張した面持ちで集まってきました。翌28日と29日に長野県飯田高校で実施する高校生との交流会や授業を実施するためです。高校生と年齢に近い大学院生が研究の面白さや魅力、そして高校時代に自分の将来についてどう考えていたのかを熱く語ってもらい、高校生の参考にしてもらう、全国的にみても先端的な取り組みです。

この事業を成功に導くため4名の担当教員は、6名の院生達と綿密な打ち合わせをウェブベースで重ねてきました。それでも直前の授業リハーサルと改善が必須です。各院生によるリハーサル後、どうすれば伝えたい内容が伝わるようになるのか、教員達の過去の経験に基づいて総ツッコミ（指導とも言う）を入れます。この過程が彼らを大きく成長させました。

午後に理数科1年生40名の生徒達との交流会を行いました。同校での「探求」的取り組みとして1年間実施する課題研究のテーマ選定で生徒達が不安を感じているので、院生達にアドバイスしてもらおうという試みです。初めてのことでしたが、交流会が始まると活発な意見交換が行われました。その様子を見ていて我慢しきれなくなった担当教員も高校生にアドバイスを始めてしまいました。予定時間を過ぎても院生にアドバイスを求める生徒が続出し（写真1）、担任の先生も嬉しい悲鳴を上げていました。

29日午後には、院生2名がペアとなり、3グループに分かれて授業を実施しました。受講登録した高校生は81名。他にも飯田高校の先生方も含めて飛び入り参加した生徒もいました。きついリハーサルを重ねた甲斐があって、総研大生は、高度な内容を非常に分かりやすくかみ砕き、立派な授業を行いま



写真1 真剣な表情で総研大生に話を聞く高校生達。交流会での一コマ。



写真2 総研大生による高校生向け授業の様子。生徒達は年齢が近いので、親しみをもって話を聴けたようです。

した（写真2）。授業後に実施した高校生からのアンケートでも「分かりやすい授業だった」「研究に取り組む面白さが伝わってきた」という意見が多数見られました。

大変有り難いことに、28日に交流会の様子を中日新聞に、また、29日の授業の様子を南信州新聞に大きく報じていただきました。これにより飯田市を含む長野県伊那地域では総研大の名前が大きく認知されたと思います。飯田高校の巻山校長は、院生が飯田高校の教育に寄与したとして「証明書」を発行して下さいました。

最後になりますが、本事業を成功に導くため、飯田市の大きな支援があったことを申し添えます。大学が社会と連携してその存在意義を高めていくためには、理解ある自治体との協力が非常に重要であることを、改めて実感しました。【天文科学専攻 大石雅寿、遺伝学専攻 木村暁、基礎生物学専攻 藤森俊彦、日本歴史研究専攻 坂本稔】

グループテーマ	タイトル
「“つくる”を観る」と「“つくる”を創る」 ～星のできかたとタンパク質の作りかた～	電波で解き明かす星形成の謎
	タンパク質今昔物語 ～その構造の観点から～
宇宙初期に生まれた2つの「H」 ～Hydrogen & Higgs～	ヒドリドが広げる水素の可能性
	宇宙の謎を解き明かせ ～粒子測定最前線～
工学が目指す「宇宙」、 理学で追求する「宇宙」	釘を打っても割れないセラミックスが切り開く これからの宇宙輸送
	ぶつかる銀河の秘密



研究者人材育成シンポジウムを開催

2019年2月19日に、企画室主催の研究者人材育成シンポジウムが、東京工業大学キャンパス・イノベーションセンターに於いて開催されました。このシンポジウムでは、各専攻の教育内容等に関する情報共有を通して、教育研究活動全体を俯瞰的に分析・評価・発信することを目指しました。また、各専攻の教育担当の先生方と「総研大における人材育成のあり方」について議論を行い、最終的に総研大の将来構想の検討につなげていくことを目的とするものです。そのような議論の中で、教育・研究ネットワークの構築を目指そうとするものです。

最初に長谷川学長の開催挨拶があり、次に、企画室長の中村理事より趣旨説明がありました。趣旨説明においては、総研大将来構想を考える上で、総研大のミッションとして、優秀な研究者人材の育成が重要であることがあらためて強調されました。具体例として、大学共同利用機関の特性を最大限利用し、国際共同学位プログラム



をどのように設置するかを検討中であると説明がありました。また、育成すべき人材像として、研究分野をリードするトップレベルの研究者を想定し、その育成のための教育プログラムや組織体制の議論を行いたいとシンポジウムへの期待が述べられました。

それらを踏まえ、各専攻より、教育研究内容の発表がなされ、互いの教育内容を紹介・共有しました。専攻においては、専門教育のみならず、幅広い視野を育成する教育を実施している専攻もかなり多いことがわかりました。また、研究指導体制においても、担当教員だけではなく、複数の教員による、いわゆる集団指導体制をとっている専攻も多くみられました。その他も含め、紹介内容に基づき、全員でのディスカッションを行い、日本の最先端研究機関における人材育成のあり方について、総研大独自の人材とはどのような人材か、今後、大学がどのような方向に進むべきかを議論しました。忌憚のない率直な意見交換が行われ、和気あいあいとした雰囲気の中、成功裏に終了しました。【企画室・特任准教授 西中美和】



当日のアジェンダ

開催挨拶	長谷川学長
趣旨説明（総研大将来構想を踏まえて）	中村理事
各専攻の教育研究内容の紹介 （発表は 13 専攻）	各 10 分
ディスカッション	全員
閉会の挨拶	中村理事
出席者:各専攻より 16 名、葉山より 8 名が参加	



総研大アジア冬の学校 "Star and Planet Formation: Key Questions and Challenges" を開催

総研大物理科学研究科天文科学専攻により、総研大アジア冬の学校「SOKENDAI-UST Asia Winter School 2019（以下 SAWS2019）"Star and Planet Formation: Key Questions and Challenges"」が 2019 年 2 月 27 日から 3 月 1 日に国立天文台三鷹キャンパスにおいて開催されました。今年度は韓国の UST (University of Science & Technology) との共催により、日本国内からの参加者 21 名に加えて、韓国から 9 名、その他台湾、インドネシア、タイ、ベトナムなどアジア各国から計 42 名の学部生、大学院生、若手研究者の参加がありました。



グループ討論の様子

副題にもあるように、今年度の SAWS2019 では、天文学で最もホットな話題の 1 つとなっている星・惑星形成の最前線について学ぶことを目的としました。国立天文台が参加するすばる望遠鏡やアタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計 ALMA などの大型プロジェクトによる最新の観測で、太陽系以外の多くの



発表会の様子

星でも惑星形成が起こっていることが確認されており、地球や太陽系の起源を探る上では理論から観測まで幅広い最新の研究成果の総合的理解が重要です。特に、今後の研究を担う大学院生には、現在未解明の問題の把握やその解決に至る道筋についての認識も不可欠です。

このことを念頭に置き、今年度の SAWS2019 では講義とグループ討論という2つの柱に重点を置きました。前半1日半の講義では、総研大や UST、国内外の大学や研究機関から招待した星・惑星形成研究の専門家12名による最新の研究成果と未解明問題についての紹介がありました。これに引き続き、参加者は5名程度の8つのグループ

に分かれて、各講師から与えられた「キークエスチョン」についての論文輪講やグループ討論を1日かけて行い、最終日に討論結果を全参加者や講師の前で発表しました。

多くの参加者が講義、グループ討論ともに積極的に参加し、時間を超過して議論が白熱する場面も多かったです。閉会式では、特に積極的に議論に参加した3人の参加者と最も優秀な発表をしたグループを実行委員が選考して、表彰を行いました。アンケートによると、3日間では時間が全く足りない、という不満もあったようですが、多くの参加者にとって有意義な内容との評価をいただきました。次回以降は、新しいテーマでの継続的な開催も念頭に、もう少しじっくり議論に時間を取れるような余裕を持ったスケジュールでの開催を検討したいと考えています。

なお、当日の講義は総研大の補助によりビデオ撮影されています。近日中に講義資料と合わせてウェブサイトで公開し、今後の大学院教育にも活用していく予定です。詳細が決まり次第総研大のウェブサイトへ情報を掲載いたしますので、ぜひご期待下さい。

【廣田朋也（実行委員代表）、川邊良平（科学組織委員代表）】



国立天文台スプリングスクールを開催

国立天文台・総研大天文学専攻スプリングスクールプログラムが2019年3月4日（月）～7日（木）に国立天文台大セミナー室で開催されました。本プログラムは、大学理工系学部3年または2年に在学する天文学研究に強い意欲を持つ学生を対象とし、装置開発を含む最先端の天文学の基礎を学ぶことを目的としています。今年は、光赤外線天文学、電波天文学、太陽物理学、重力波天文学、理論天文学、装置開発の各分野から合計10名の教



講義の様子



体験学習の様子

員がレクチャーを行い、日本全国から合計 60 名の学部学生の参加がありました。講義では、星惑星系の形成進化、太陽活動、銀河考古学、銀河と宇宙の進化、重力波、ブラックホール、観測装置の仕組み、など、普段の大学の講義ではあまり触れない内容を学ぶことができました。施設見学は 4D2U シアターと先端技術センターでした。先端技術センターの 9 箇所の最先端装置開発の現場から各自 3 箇所選択して、それぞれ 15 分間見学をするという新しい試みをしました。

また、「集中講義」や「施設見学」の他、参加者同士の交流を深めるための「体験学習」を昨年に引き続き実施

しました。この「体験学習」は、太陽から遠方宇宙までの様々なスケールの天体や天文現象について 8 つの研究テーマを用意し、実験や論文輪読などを通して体験することを目的としています。事前に希望調査をし、各研究テーマに 7~8 人のグループに分かれて体験学習に取り組んでいただきました。最後に行われたアンケートでは、「貴重な体験ができた」「講義の時間が足りない」「今後の進路の参考にしたい」など、前向きな感想をたくさんいただきました。

【伊王野大介(国立天文台 アルマプロジェクト/総研大 物理科学研究科天文科学専攻)、早野裕 (国立天文台 先端技術センター/総研大 物理科学研究科天文科学専攻)】



平成 30 年度春季学位記授与式を挙行

2019 年 3 月 22 日(金)、葉山キャンパス講堂にて春季学位記授与式が行われ、課程博士 45 名、論文博士 4 名に新たに学位が授与されました。式典では、修了生一人一人に長谷川学長より直接学位記が手渡され、学長からの式辞が贈られました。49 名の修了生が総研大での博士号を手し、将来への新たな一歩を踏み出しました。

学長式辞については、本学ウェブページ (<https://www.soken.ac.jp/news/6187/>) よりご覧ください。今回の各専攻の修了生内訳は下記の通りです。

地域文化学 1 名、国際日本研究 3 名、日本文学研究 2 名 (うち論文博士 2 名)、構造分子科学 1 名、機能分子科学 1 名 (うち論文博士 1 名)、天文科学 3 名、核融合科学 2 名、宇宙科学 2 名、加速器科学 2 名、物質構造科学 1 名、素粒子原子核 2 名、統計科学 5 名、極域科学 1 名、情報学 8 名、遺伝学 4 名 (うち論文博士 1 名)、基礎生物学 5 名、生理科学 3 名、生命共生体進化学 3 名 【総務課総務係】



3/27

広報連絡会を開催

2019年3月27日に総研大広報連絡会会合が、学術総合センターで開催されました。広報連絡会は、本学の基盤機関と本学の葉山本部の広報担当教職員で構成されており、主に情報共有を目的に開催されています。本学基盤機関と葉山本部の広報担当者は、広報における共通の目的や課題を持っていますが、直接会う機会は多くありません。互いに顔をつきあわせて各機関広報の持つ問題と過去の事例を共有することで、より円滑に総研大広報事業を発展させることがこの会合の大きなねらいです。当日は13の基盤機関から20名の参加があり、活発な議論が交わされました。

今回は、沖縄科学技術大学院大学(OIST)で広報を担当されている名取薫氏よりOISTでの国際広報の理念や展開について講演していただきました。参加者からは、海外からのフェローを活用した先進的な取り組みについて特に多く質問が上がりました。また、受験生をどう集めるか、また各学問分野の特徴をどう広報に生かすか、各基盤機関から現状と課題等が紹介され、その後のグループディスカッションでは国際広報及び機関連携について、他の機関の担当者と意見交換が行われました。

この会合をとおして、総研大の各基盤機関は設立の理念や広報に対する考え方も多様性に富んでいることを互いに認識し、その上で、機関同士で広報のノウハウを共有するということがやはり重要であるということを確認しました。ここで培ったノウハウや人脈を各機関に持ち帰って、広報事業に生かしていただければ幸いです。【企画室・講師 眞山聡】



名取薫氏による講演

4/3

湘南国際村セミナー「豊かな人生を考える」を開催

2019年4月3日(水)、葉山キャンパスにおいて、初めての試みとして、湘南国際村自治会と葉山町上山口町内会との共催で、湘南国際村セミナーを開催しました。セミナーには地域の方約60名の参加者があり、第1部の「人間はなぜ学び続けるのか」と題した長谷川学長の講演と、第2部の「シニア世代のライフデザイン」と題して小川理事及び三井住友信託銀行のお話があり、熱心に聴講されていました。また、現在検討中である、全国の総研大キャンパス紹介を通じて地域の方々との交流を深めるバスツアーについての説明もありました。



セミナー終了後、葉山キャンパスは、災害時における地域の方々の避難場所となることから、飲料水や



食料の備蓄庫などの学内見学を実施し、ちょうど満開となっていた庭のサクラ鑑賞も行いました。

このようなセミナーを通じて、今後も近隣地域の方々の交流を深めていきたいと思えます。

【総合企画課広報社会連携係】



4/5

高エネルギー加速器科学研究科 新入生ガイダンスを実施

2019年4月5日（金）、KEKつくばキャンパスの研究本館会議室にて、新入生ガイダンスが行われました。高エネルギー加速器科学研究科の新入生はじめ、4月より新たにKEKに受け入れられた連携大学院学生、特別共同利用研究員、日本学術振興会特別研究員に向けて、KEKでの活動に必要な情報を提供するものです。

ガイダンスでは、高エネ研究科長と同研究科所属の各専攻長が総研大新入生を対象に、KEKで推進されているさまざまな研究に関して第一線の研究者陣がオムニバス形式で講義を行う「高エネルギー加速器科学セミナー」など、特長的なカリキュラムについて説明しました。また、新入生全体に対して、KEKにおける各種手続きの案内が行われました。

ガイダンスに合わせ、KEK内外の講師によるメンタルヘルスや情報セキュリティ、研究倫理に関する講義も行われ、新入生と在籍生を合わせて約40名が参加しました。また、KEKで学ぶ大学院生と研究員が一堂に会し、日頃の研究成果を発表し交流を行う「KEK スチューデントデイ」（2019年11月12日（火）に開催予定）などのイベントの開催も案内されました。

ガイダンス終了後の歓迎会では新入生の自己紹介が行われ、それぞれの意気込みが語られました。また、大学院生や研究員だけでなく教員らも多数集まり、学生生活や研究内容について議論に花を咲かせました。【高エネルギー加速器科学研究科】



KEKつくばキャンパスでの集合写真



ガイダンスの様子

2019年4月9日(火)、葉山キャンパス講堂にて、平成31年度春季入学式が行われ、97名の新入生を迎えました。学長式辞は本学ウェブページ(<https://www.soken.ac.jp/news/6189/>)をご覧ください。新入生の専攻別人数内訳は以下のとおりです。

文化科学研究科 13名(地域文化学専攻 3名、比較文化学専攻 2名、国際日本研究専攻 4名、日本歴史研究専攻 2名、日本文学研究専攻 2名)、物理科学研究科 23名(構造分子科学専攻 3名、機能分子科学専攻 5名、天文科学専攻 6名、核融合科学専攻 2名、宇宙科学専攻 7名)、高エネルギー加速器科学研究科 7名(加速器科学専攻 3名、物質構造科学専攻 1名、素粒子原子核専攻 3名)、複合科学研究科 32名(統計科学専攻 12名、極域科学専攻 7名、情報学専攻 13名)、生命科学研究所 19名(遺伝学専攻 6名、基礎生物学専攻 10名、生理科学専攻 3名)、先端科学研究科 3名(生命共生体進化学専攻 3名)

【総務課総務係】



受賞情報

- 機能分子科学専攻長、分子科学研究所長 川合眞紀 教授

「ロレアル - ユネスコ女性科学賞」を受賞

【URL】 <https://en.unesco.org/news/21st-edition-loreal-unesco-international-awards-women-science>

英国王立化学会の名誉フェローに選出

【URL】 https://www.ims.ac.jp/news/2019/03/08_4270.html

- 構造分子科学専攻 小林玄器 准教授 「田川記念固体化学奨励賞」を受賞

【URL】 https://www.ims.ac.jp/news/2019/04/02_4297.html

- 天文科学専攻長、国立天文台長 常田佐久 教授 「日本学士院賞」を受賞

【URL】 <http://www.japan-acad.go.jp/japanese/news/2019/031201.html>

- 総合研究大学院大学 永嶺謙忠 名誉教授 「日本学士院賞」を受賞

【URL】 <http://www.japan-acad.go.jp/japanese/news/2019/031201.html>

- 平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

【URL】 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/04/1415044.htm

科学技術賞

氏名	部門	所属・役職	業績名
吉田 道利	研究	自然科学研究機構国立天文台ハワイ観測所 教授／総研大 物理科学研究科天文科学専攻 教授	中性子星合体重力波現象の光赤外線対応天体の研究
山下 智志	科学技術振興	情報・システム研究機構統計数理研究所 副所長／リスク解析戦略研究センター長・データ科学研究系教授／総研大 複合科学研究科統計科学専攻 教授	信用リスク評価に対するデータサイエンス技術の振興

若手科学者賞

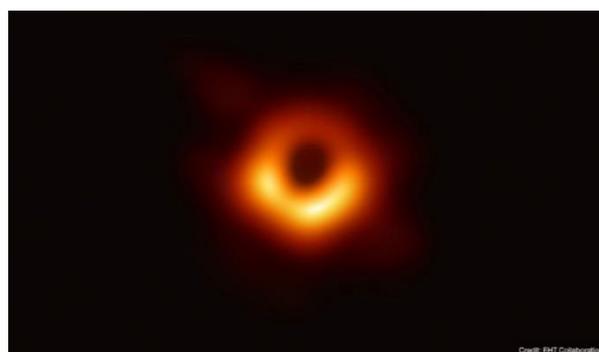
氏名	所属・役職	業績名
金子 めぐみ	情報・システム研究機構国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 准教授／総研大 複合科学研究科情報学専攻 准教授	無線資源利用効率を高める次世代移動体通信システムの研究
久保 郁	情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 新分野創造センター 准教授／総研大 生命科学研究科遺伝学専攻 准教授	視覚情報処理と行動制御の神経メカニズムに関する研究
近藤 邦生	自然科学研究機構生理学研究所 生体機能調節研究領域 助教／総研大 生命科学研究科生理科学専攻 助教	ストレス応答を担う中枢神経回路の研究
坂田 綾香	情報・システム研究機構統計数理研究所 助教／総研大 複合科学研究科統計科学専攻 助教	スピニングラス理論に基づく統計的機械学習の研究

プレスリリース情報

2019.4.10

史上初、ブラックホールの撮影に成功 — 地球サイズの電波望遠鏡で楕円銀河 M87 に潜む巨大ブラックホールに迫る —

イベント・ホライズン・テレスコープは、地球上の8つの電波望遠鏡を結合させた国際協力プロジェクトであり、ブラックホールの画像を撮影することを目標としています。2019年4月10日、研究チームは世界6か所で同時に行われた記者会見において、巨大ブラックホールとその影の存在を初めて画像で直接証明することに成功したことを発表しました。



【総研大からの本プロジェクト参加メンバー】

教員：本間希樹 国立天文台水沢 VLBI 観測所,総合研究大学院大学 教授, 観測所長
秦和弘 国立天文台水沢 VLBI 観測所,総合研究大学院大学 助教
池田思朗 統計数理研究所,総合研究大学院大学,国立天文台, Kavli IPMU 教授
永井洋 国立天文台アルマプロジェクト,総合研究大学院大学 特任准教授
学生：崔玉竹 総合研究大学院大学,国立天文台水沢 VLBI 観測所 学生
津田修一郎 総合研究大学院大学 学生

【URL】 <https://www.nao.ac.jp/news/science/2019/20190410-eh.html>

メディア等出演・掲載情報

■ 京都新聞 夕刊 現代のことば「津波をめぐる記憶の継承」

【掲載】 比較文化学専攻 吉田憲司 教授

【日時】 2019年2月27日(水)

■ 毎日新聞 朝刊 みんなく公開講演会

「アンデス文明の起源を求めて—日本人研究60年の軌跡と展望」

【掲載】 比較文化学専攻 関雄二 教授

【日時】 2019年4月12日(金)

【URL】 <https://mainichi.jp/articles/20190412/ddn/010/040/044000c>

Event Calendar イベント情報

日程	時間	イベント名称 (リンク)	実施専攻・基盤機関
2019/2/21 - 5/7	10:00 - 17:00	企画展 「旅する楽器—南アジア、弦の響き」	国立民族学博物館 (寺田吉孝教授)
2019/3/21 - 5/28	10:00 - 17:00	特別展「子ども／おもちゃの博覧会」	国立民族学博物館 (笹原亮二教授)
2019/5/17	13:30 - 17:00	2019 年度大学院入試説明会 核融合科学研究所開催	核融合科学専攻
2019/5/18	13:00 - 17:00	前期専攻説明会	生命共生体進化学専攻
2019/5/25	13:00 - 17:55	国立遺伝学研究所 大学院一日体験会	遺伝学専攻
2019/6/5	12:30 - 13:30	統計科学専攻 大学院説明会 学術総合センター	統計科学専攻・統計数理研 究所
2019/6/5	12:30 - 14:30	統計科学専攻 学生研究発表会 (ポスター 発表) 学術総合センター	統計科学専攻・統計数理研 究所
2019/6/6 - 9/10	10:00 - 17:00	企画展「サウジアラビア、オアシスに生き る女性たちの 50 年—『みられる私』より 『みる私』」	国立民族学博物館 (西尾哲夫教授)
2019/6/7	13:45 - 19:45	前期オープンキャンパス	生命共生体進化学専攻
2019/6/8	10:30 - 16:00	オープンキャンパス 2019 「総合研究大学院大学説明会」(物理科学 研究科)	分子科学研究所 物理科 学研究科 (機能分子科学専 攻・構造分子科学専攻)
2019/8/6 - 8/9	【1 日目】 13:00-18:00 【2・3 日目】 9:20-18:00 【最終日】 9:20-12:00	夏の体験入学	分子科学研究所 物理科 学研究科 (機能分子科学専 攻・構造分子科学専攻)
2019/8/26 - 8/30	—	2019 年度 夏の体験入学 (第 16 回)	核融合科学専攻
2019/8/29 - 11/26	10:00 - 17:00	特別展「驚異と怪異—想像界の生きものた ち」	国立民族学博物館

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

お知らせ

■ 古本募金（きしゃぼん）の運用開始について

本学では、2019年4月1日より古本募金（きしゃぼん）の運用を開始しました。

古本募金（きしゃぼん）は、本・DVDなど使い終わったものをリサイクル換金して寄附できる新しい募金のシステムです。詳細については、下記URLご参照ください。【総合企画課広報社会連携係】

【URL】 <https://www2.kishapon.com/soken/>

■ 編集後記

総研大ニューズレター令和第一号です。そして、今回のニューズレターは平成最後3ヶ月の総研大をまとめた内容となります。

とてもありきたりな書き出しですが、今年葉山キャンパス近辺では桜満開の期間が長く、それだけで幸先のいい気がしてしまいます。（右の写真は一橋講堂近くで見たしだれ桜です）「令和」が皆様にとって幸多き時代となりますように。（広報社会連携係 C.A.）



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2019年5月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2019 SOKENDAI